

子どもたちとともに

シティズンシップを

シティズンシップ教育って、何?・

「身の周りで起こっている問題を自分のこととしてとらえ、相手の 立場や多様性を尊重しつつ、自ら考え、自ら判断し、自ら行動する 市民としての資質や態度を育てる」教育です。

MAR, LANGELLE MILLER MARKET

シティズンシップ教育のねらいは?

「平和な市民社会を創る担い手としての民主的な市民を育てること」 をねらいとします。 「未来の教育を考える会」では、2015年度末に研究テーマを『シティズンシップ教育』に絞り、シティズンシップ教育の入口にあたる理論的な押さえをしました。その内容は、"2016年3月 VOL45研究所レポート"に掲載し、先生方に、シティズンシップ教育について関心をもち、理解をすすめていただくこととしました。

2016年度は、シティズンシップ教育を授業のなかで実践していただき、その実践報告をもとにシティズンシップ教育を考えることとしました。そのために、研究の協力員を次の先生方にお願いし、授業実践と報告を通して研究をすすめました。



協力員名	所属等	実 践 授 業
川村 啓介	三島支部・坂小	6年学級活動「坂小のためにできることを考えよう」
髙橋 伸明	駿東支部・御殿場南中	3年社会「人権と日本国憲法」
宮部 真崇	榛原支部・相良中	2年社会「産業の発達と幕府政治の動き」
古屋真	小笠支部・西郷小	6年学級活動「地域と一体ふれあい体育祭応援プロジェクト」
大石 誠	湖西支部・鷲津小	6年学級活動「学級目標を決めよう」

小学校の先生方は学級活動を、中学校の先生方は社会科の授業を通してシティズンシップ教育に迫っていただきました。未来の教育を考える会としても、テーマは決めたものの研究が十分ではありません。協力員の先生方には試行錯誤をしながら、授業実践を行っていただきました。小学校での実践事例を一つあげ、実践事例を通して、シティズンシップ教育について組合員のみなさんに考えてほしいと思います。

小学校での授業実践…6年 学級活動

1 題材名 「坂小学校のために、できることを考え実行しよう」

2 題材の目標

- ・学級活動を通して望ましい人間関係を形成し、集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的・実践的な態度や健全な生活態度を育てる(学習指導要領の目標)
- ・保護者や地域の人々の思いを受けとめ、共によりよい学校をつくっていくために協力していこうとする 態度を育てる(シティズンシップ教育としての目標)

3 本時の指導

(1)本時のねらい

坂っ子農園の野菜の売り上げを活用し、坂小のために何かしようと考えている子どもたちが、自分の 意見をしっかりもち、意見交流を通して、地域の方々の思いを受けとめ、坂小学校のみんなのために活 用方法を話し合うことができる。

(2)シティズンシップ教育の視点

視点1:地域の方々との共同による活動を取り入れる

視点2:自分たちで決めたことを、自分たちで実行する

視点3:自分なりの考えをもち意思表示をして話し合いにかかわる

視点4:坂小学校みんなのことを考える

視点5:一人一人の思いを大切にして決定する



(3)本時の授業 ※赤字は、シティズンシップ教育を意識した働きかけと子どもたちの学び

平时の技法 ※小子は、グナイスノンツノ教育を急減した関さかけてするもたりの子の			
	教員の働きかけ	子どもの学習活動	
1	司会者に今日の議案を確認することを促す。	○司会者が、議題を発表する。「坂っ子農園の売り上げを活用し、坂小学校のためにできることを考えよう」です。・学校のためにできることを考えるんだ(視点4)。・わたしたちでできることって、何があるのかな(視点2)。	
2	司会者に話し合いのめあてを示すよう促す。	○司会者が、学習のめあてを発表する。 「坂小学校のことを考え、しっかりと意見を言おう(視点3)。」 です。	
	学習のめあてについて 補足する。 考えをしっかり持つ、 はっきり出す、積極的 に話し合いにかかわる という具体的な行動目 標を示す(視点3)。	 ○小柱1「どんなことができそうか」(視点2) ・野菜の肥料や種をかったらどうか。 ・たくさん作れば売り上げも上がるしね。 ・学校のいろいろ箇所の修理をしたい。学校のためになるね(視点4)。 ・やれることもあれば、僕たちや地域の人だけでは無理なところもあるよね。 ・大人の人たちといっしょにやることを考えたら、楽しそうだし、いろいろなことができそう(視点1)。 	
4	司会者に話し合いを進めるよう促す。	 ○小柱2「活用する上で、考えなくてはならないことはどういうことか」 ・自分たちでできることと、そうでないことを分けないと。 ・お金がいくらかかるかわからないと、実行には移せないと思う。買いたいものは、値段がわかれば行動に移せるね。 ・みんなのためにという点を忘れちゃいけないよね(視点4)。地域の人たちへのお返しもね。 	
	話し合いでよかったことを価値づけ、実践への意欲を高める	○司会者は、決まったことを発表する。	

- ・「地域の方々といっしょ に」と考えたこと(視 点1)。
- ・「みんなのために」を 確認できたこと(視点 4)。
- ・地域の人たちといっしょに できるものを何かしたらい い (視点1)。



実践事例報告後の学び合い



- * 先生があげたシティズンシップ教育の視点1「地域の方々との共同による活動を取り入れる」は、地域社会とのかかわりを意図的に計画したもので、地域社会への参画はシティズンシップ教育のねらいの一つでもあるので、すばらしい。
- ★ シティズンシップ教育の視点2「自分たちで決めたことは、自分たちで実行する」は、社会を担い、

責任ある市民として行動するというシティズンシップの大切な資質であり、これを意識し、こういう資質を育てたいという先生の願いのこもった授業になっている。

* この実践と同じような授業をなさっている先生方は多いと思う。しかし、授業者は、シティズンシップ教育の視点を5つ設定し、1年間の学級活動を通してシティズンシップ(小学生なりの市民性)を育てようとしているのではないか。こういった指導者の構えによって、学級活動の授業を変えていくことができると思う。

【まとめ】

5人の研究協力員の先生方は、"シティズンシップ教育とは何か、何をねらいとするのか"等を考えながら授業実践にとりくみました。

未来の教育を考える会では、シティズンシップ教育を研究する上で、『付けたい力は何か』を明確にすることが今後の授業実践には大事な論点整理ではないかと考え、授業実践を通して付けたい力を探ってきました。付けたい力はこういうものであるということを、本レポートで示すには、研究が十分ではありませんが、次のようなことは言えるのではないかと考えます。

シティズンシップ教育として付けたい力を押さえ、市民としての子どもの可能性を引き出すという視点を持って授業を実践することにより、先生方の中に、子どもたちを「市民へと育てる」という意識が生まれ、これまでの子どもたちの学習活動をシティズンシップ教育の観点からとらえなおすことができ、子どもたちの「市民」として資質や態度を育てることができる。



-般財団法人静岡県教職員互助組合





静岡県学校生活協同組合連合会



一般社団法人静岡県出版文化会







株式会社静岡教育出版社

